
RED FLOWER

井伊野 衣織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

RED FLOWER

【Nコード】

N6825A

【作者名】

井伊野 衣織

【あらすじ】

殺し屋の少女を中心に探偵が警察が怪盗が組織が動き出す。闇に生きる少女は果たしてどう生きるのか。殺し屋シリーズ、開幕。

プロローグ 赤の宴

ガウンッ

真夜中。人氣のない倉庫で大きく、しかし一瞬だけの銃声が響いた。あたりは火薬の匂いが風にのり流れていく。

「見事だな」

「ジンさんに誉めていただけるなんて嬉しいですね」

言葉とは裏腹にまるきり嬉しいなんて感情は込められていない声で少女は返す。彼女の右手には、拳銃が握られている。ジンと呼ばれた男は口角を歪めワラう。

「ーお前のことをボスは酷く気に入っている。俺たちの仲間にならねえか」

少女は黒く光のない目でジンを見る。

「お断りですよ。私は誰かに縛られるのは嫌いです」

そうついい、振り返り出口へと歩く。

その姿をみて、ジンは呟く。

「《危険区域》か…」

彼女の存在が雰囲気と言葉が動作が息一つが、自分への警鐘を鳴らす。逃げろという。

闇に浸った自分ですらも――だ。

与えられるのは絶対的恐怖。
入ってしまったば逃げられない。

それ故に――《危険区域》
「上手くつけたものだぜ」

ジンは煙草をくわえ、視線をながした。

視線の先には、額から頭の裏まで穴があいた男が一人何も写らない
白い眼でこちらを見ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6825a/>

RED FLOWER

2010年10月10日04時12分発行